2018 年 11 月 9 日
シチズン時計株式会社

2018 年度（2019 年 3 月期）第 2 四半期決算説明会　主な質疑応答（要旨）

- ✓ 日時　：　2018 年 11 月 9 日（金）17 時 00 分～18 時 00 分
- ✓ 当社出席者　：　代表取締役　戸倉、常務取締役　竹内、取締役　古川

【全体】

Q）棚卸資産の増加要因について。

A)主に時計事業と工作機械事業が要因。特に時計事業の内、ムーブメントの在庫が増えており、上期は減産も実施したが売上高が未達に終わった。下期も減産しながら調整していく。工作機械事業の在庫増は、受注増に対応したものであり、健全な状態。

【時計事業】

Q）時計事業の売上高・営業利益が大きく落ち込んだ要因は。

A）ムーブメントの減収が大きかった。特にアナログクオーツムーブメントは、商戦期に需要が立ち上がらず苦戦した。完成品は、中価格帯販売は堅調だったものの低価格帯が伸び悩んだ。一方で国内市場において 100 周年記念イベント等を実施し、広告宣伝投資を増やしており、売上高の伸びが限定的となる中でコスト増が響いた。また、Frederique Constant は北米で流通整理を行っており、整理に伴う返品や旧在庫の引取り等による負担が増した。

Q）腕時計市場の需要が高価格帯から中価格帯へ波及するとの見通しだったが、状況は。

A）時計市場の回復に遅れを感じている。しかし、北米市場は中価格帯の復調を示す市場データを得られている。時間を要している要因として、消費嗜好が時計以外に向いている事も影響しているかもしれない。今年度は創業 100 周年を記念したポップアップストアを展開し、時計を実際手にしてもらう機会を増やしている。来場者は想定を上回っており、従来通りのマーケティングや広告宣伝に加え、実際に体験してもらう取り組みの必要性を感じている。また、時計を手に出来る GINZA SIX の旗艦店も売上は好調に推移しており、時計の魅力を更に打ち出していきたい。

Q）Fossil 社との業務提携について、業績寄与はいつ頃から期待できるか。

A）Fossil 社はスマートフォンとコネクトするアプリケーションを持っており、積極的に研究開発費も投じてきた。一方、シチズンは、薄さや省電力と言った高機能ムーブメントの製造技術に長けており、独自のスマートウオッチ開発に取り組んできた。両社の強みを融合することで、ハイブリッドスマートウオッチに特化し、より魅力的なスマートウオッチの完成品およびムーブメントを作っていく。ムーブメントの外販が本格化すれば業績への寄与が期待できる。シチズンブランドへの搭載や OEM についても動きは既に始まっている。2019 年度中の業績寄与を目指している。

【工作機械事業】

Q）下期以降の見通しについて、どう見ているのか。

A）部材調達については、部材メーカーが生産キャパシティを上げていることもあり、厳しさは残るものの改善傾向にある。上期は北米市場でミヤノ機の拡販に成功する等、欧米を中心に高機能機種が伸長し、製品ミックスが利益に貢献した。下期は部材調達リスクよりもカスタム設計対応や出荷・設置対応のキャパシティへの懸念が強まる見通し。ただし、受注は充分に得られている。

Q）先進国比率上昇による製品ミックスの改善は継続する見通しか。

A）下期以降も先進国の受注は維持できる見通し。上期は北米市場が特に好調だった為、下期はやや慎重に見ており、利益率は上期を若干下回る想定。

以　上